明治学院バッハ・アカデミー会報 （第4号）

巻頭言 《マタイ受難曲》を終えて

芸術監督　樋口隆一

サントリーホールでの《マタイ受難曲》（2016 年 3 月 20 日）を大成功のうちに終えることができました。ジョン・エルウィスさん河野克典さんをはじめとするすばらしいソリストの皆さん、チェンバロの渡邊順生さん、みごとな独奏や合奏を繰り広げて下さった古楽器奏者の皆さん、長丁場を全力で歌いきった合唱団の皆さん、コラールで美しい歌声を聴かせてくれたハイグリーの皆さん、そしてさまざまなかたちで支えて下さったスタッフの皆さんに心からお礼を申し上げます。

2016.3.20　マタイ受難曲演奏会　於サントリーホール　（写真：三浦興一）

カーテンコールを終えて楽屋の前に戻ると、作曲家の西村朗さんご夫妻や、東京混声合唱団の小林事務局長など多くの方々が来て下さり、「とても感激した」と褒めて下さいました。それほどの賛辞はにわかには信じられませんが、少なくともバッハの最高傑作を大過なく演奏できたこと、そのことによって多くの方々に心の慰めを感じていただけたことだけはたしかだと実感することができました。
明治学院バッハ・アカデミーは、2002 年 3 月に《マタイ受難曲》初期稿（1727/29 年稿）を上演し、そのライブ CD がたまたま世界初発売となったために、大きな反響を得ることができました。2006 年 6 月にライプツィヒ国際バッハ音楽祭に招待出演させていただいたのも、その CD がドイツの専門家に認めていただいたからでした。2008 年にはジョン・エルウィスさんを福音史家に迎えて後期稿（1736 年稿）を上演しましたが、申し込みが殺到し、追加公演を余儀なくされました。今回はサントリーホールだったので、まだまだ余裕がありましたが、それでも 1100 名程度の方々に聴いていただけたのは、

ありがたいかぎりです。この 3 月の東京では、バッハの都であるライプツィヒから来た聖トマス教会合唱団が 2 回、オランダの名門であるラ・プティトバンドが 1 回、バッハ・コレギウム・ジャパンが 1 回、そして私どもが 1 回、つまり合計 5 回もの《マタイ受難曲》演奏会がある意味で競合したわけですから、これだけの皆様に来て頂ければ大成功というべきでしょう。

マタイ受難曲演奏会（写真：三浦興一）

サントリーホールは来年、大がかりな改修工事を予定しているため今秋の会場確保が困難となり、2016 年度の公演は 6 月 21 日（火）となりました。フランスの宗教音楽の最大傑作ともいうべきフォーレのレクイエムを中心としたプログラムには、すでにかなりの反響があるのは嬉しいことです。19 世紀・20 世紀の作品が多いので、今回はいつものような古楽器のオーケストラではなく、モダン楽器によるＮ響団友オーケストラにご出演頂けるのも嬉しいことです。せっかくサントリーホールのオルガンを使えるので、このホールではすでに何回かご一緒した椎名雄一郎さんをお迎えし、プーランクの《オルガン、弦楽、ティンパニのための協奏曲ト短調》で始められるのも楽しみなことです。ティンパニの独奏も、元 NHK 交響楽団首席奏者で現在は日本打楽器協会理事長を務められる百瀬和紀さんが担当されるのも聴きどころでしょう。

横浜市立開港記念会館（2015.10.2）

顧みると、2015 年度の活動はたいへん忙しいものでした。まず 2015 年 3 月 14 日（土）には宮城県の白石ホワイトキューブで、白石キューブ合唱団とのジョイントコンサートとしてハイドン《小オルガンミサ曲》ほかをＮ響団友オーケストラと演奏したのを皮切りに、10 月 2 日（土）には横浜市立開港記念会館での樋口の講演・演奏会「激動の 20 世紀と亡命ユダヤ人音楽家―レオ・シロタを中心に」のなかで、高田三郎の《水のいのち》を歌いました。

11 月 14 日（土）にはふたたび白石ホワイトキューブでの白石キューブ合唱団とのジョイントコンサートでモーツァルト《ミサ曲変ロ長調》ほかをＮ響団友オーケストラと上演しました。そして 11 月 28 日（土）には、明治学院大学アートホールでの港区チャレンジコミュニティー大学特別演奏会として、《水のいのち》やモーツァルトの《ミサ曲変ロ長調》ほかを栗島和子さんのピアノ伴奏で歌いました。12 月 23 日（水）の明治学院クリスマス音楽礼拝でも、モーツァルトのミサ曲からキリエと、ヘンデルの「ハレルヤ」を歌えたのは嬉しいことでした。

こうして振り返ってみると、忙しい日程を縫って練習を重ねてきた《マタイ受難曲》が成功を収めたことの価値がよくわかります。合唱団はステージを重ねるごとに大きく成長を続けたからです。音楽は、熱心に演奏を聴いて下さる聴衆と共に作り上げるものです。そういう心の交流を重ねてこそ、合唱団は歌う喜びを知り、音楽を共に作り上げることを学ぶからです。6 月の演奏会まで、あまり余裕はありませんが、その緊張が、合唱団をさらに飛躍させるものと確信しています。多数のご来場をお待ちしております。

白石キューブでのリハーサル(2015.11.14)

合唱の喜び

Alto 野中秋子

明治学院バッハアカデミー合唱団との出会いは今から4年前、明治学院白金チャペルで行われた「教会音楽のしらべ」と題するコンサートでのこと。私の恩師に誘われて気軽な気持ちで伺ったのですが、心に染み入るような合唱の歌声にとても衝撃を受けました。学院内でも重厚な存在をかもし出す白金チャペルは今年で建堂 100 年を迎え、「東京都港区有形文化財」、東京都港区「景観上重要な歴史的建造物等」に指定され、地域に溶け込み愛されてきたことを伺わせます。教会内部は建物の小さな入口からは想像しがたいほど天井が高く、広々とした空間が中央祭壇へと続いており、コンサートが始まると同時に背後2階から響き渡る荘厳な音色のパイプオルガンは、17～18 世紀の工法を全て再現し「バッハの時代の音色」を私たちに伝えてくれる貴重な楽器として 2009 年に完成したとのこと。

明治学院白金チャペル（「教会音楽のしらべ」 2012.4.14）

東京のど真ん中にいながら、時代や場所を超越し、文化・芸術の粋を極めた空間に身を置いているのが不思議な感覚です。コンサートは天から降りてくるオーラを感じるようなパイプオルガン独奏、バッハの「プレリュードとフーガ」から始まり、ハイドンのミサ曲で合唱が加わると、一気に教会内は神とキリストへの讃美と嘆願という思いに導かれていく・・・といっても私はキリスト教徒ではないのでその雰囲気に浸っているだけかもしれませんが、それでも十分音楽そのものに救われている気がします。

プログラムが進むにつれ、普通のコンサートホールで聴くのとは違う、懐かしさを覚えるような感覚になりました。学生時代、アメリカで過ごした日々がよみがえり、嬉しいこと、辛いこと、様々な思いがこみ上げてきたのです。私は高校卒業と同時に父の転勤でアメリカオレゴン州へ移住し、明治学院

大学とほぼ同時期に創立されたウィラメット大学でピアノを専攻、多くのことを学ぶ機会に恵まれました。その中でも大学の Chamber Choir（室内楽合唱団）に所属したことは、音楽の魅力を知るきっかけとなり、音楽を通じて教会や地域の方とのつながりの大切さを認識させてくれるものとなりました。大学内にある小さな教会にはパイプオルガンがあり、クワイヤーの歌声と合わさると何とも言えない柔らかい響きがチャペル内を包み、その場にいる人たちの気持ちがひとつの方向を向いていく感覚になります。地域の方々が集まるクラブや高校にも誘われ、音楽を通して交流を深めることもありました。このような体験を重ねるうち、音楽には人と人とを結び付け、皆を幸せにする力があると思うようになりました。その頃の私はバロック音楽に惹かれ、毎晩子守唄のように聴いていたバッハの音楽、特に「ミサ曲ロ短調」と「フーガの技法」は心を癒し私の身体にしっかり根付いていました。時は経ち、学生の時のことなど忘れかけていたのですが、私は明治学院バッハアカデミーの素晴らしい合唱を聴いて一瞬にして昔の感情が鮮明によみがえってきたのです。それは写真を見て何となく懐かしく思うのとは比べられないほどストレートで、そのときの匂いや隣の人の仕草、ドキドキした緊張感までも伝わってきます。これも音楽が与えてくれる力のひとつかもしれませんね。

2014 年にサントリーホールで聴いた「ミサ曲ロ短調」も忘れられない演奏でした。合唱団とオーケストラ、そして観客のすべての人の心が一体となり、バッハの音楽を通して共有する喜びを実感したのです。終曲の「Dona nobis pacem」が四声で歌われるところでは、もう涙があふれて止まりませんでした。私もこの合唱団に入って一緒に歌いたい！と強く思ったのもこの時でした。

練習会場の明治学院記念館

その翌年の春、私はバッハアカデミー合唱団に入団し、「マタイ受難曲」の練習がスタートしました。樋口隆一先生指揮の下、合唱団の方々の温かさに支えられとても居心地よく、100 年前にタイムスリップしたかのような記念館で毎週合唱団員と共に歌うことの喜びを感じ、楽しくてたまりませんでした。
そんな様子を見ていた主人はどう思っていたのでしょうか。秋に行われた演奏会に主人を招待して合唱を聴いてもらったところ、意外な言葉を聞いてびっくりしました。なんと合唱経験のない主人が一緒に合唱団で歌いたいと言ってきたのです。嬉しさ反面、マタイ受難曲のような大曲を歌えるのかと不安でしたが、夫婦でステージに立つチャンスを逃したくないと、勢いで入団申請をさせていただきました。年が明け、いよいよ3月の本番に向け皆が気持ちを引き締めて練習をしていたころ、同じパートの方が「マタイ受難曲を歌える自信がない」と気を落としておられるのを聞き、それでは一緒にパート練習をしましょう！とお誘いしました。やはり初めてマタイを歌う場合、何度練習しても足りないと思うのも無理はありません。でも自信がないから歌うのをやめるなんてもったいない！これまでに何十回と歌っている方もいらっしゃると聞き、それだけ奥の深い名曲であればこそ、今回はこれからも歌い続けて行くための最初の一歩となると思えばいいのではないでしょうか。気を楽に、喜びをもって練習していけばきっとうまくいくと信じ、私たちは毎週月曜日お昼過ぎから練習し、その後明治学院へ移動し、夜の練習に合流することを続けました。もちろん練習だけをしていたのではなく、お茶をしながら楽しいおしゃべりに花を咲かせることは欠かせません！

マタイ受難曲　第二コーラス（2016.3.20　写真：三浦興一）

本番当日、樋口隆一先生が指揮してくださる「マタイ受難曲」は想像以上に素晴らしく、夢のような時間はあっという間に過ぎて行きました。360 度客席に囲まれ、聴衆の温かい眼差しがステージ上にいる私たちに伝わってくるのを感じ、気持ちよく歌えたことはとても幸せでした。指揮者を中心にオーケストラのみなさまとソリストの方々、そして天使のようなハイグリー部員を含めた合唱団員ひとりひとりが五感を研ぎ澄ませ、お互いを信頼し、バッハの導きに従っていく感覚は他では味わえない喜びになりました。この感動あふれるマタイ受難曲を共有させていただいた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。
最後に、私たち夫婦の好きな合唱を応援してくれた私たちの愛する子供たち、ありがとう！！

「マタイ受難曲、私をバッハの世界へ誘う」

Bass　武井康史

20 世紀も終わる 2000 年 12 月のとある日、ある方から「あなたは声が良いし、音楽の経験はあるのだから合唱をやってみたらどう？」とお誘いを受けた。経験と言っても、5 歳位から小学校 6 年生までピアノを習っていた程度の経験しか無かったが。その時の私は「合唱といっても歌うことには変わりないし、カラオケで一人が歌うのを大人数で歌う程度のものだろう、それほど難しい芸事でもあるまい。」と高を括り、幾つかの合唱団を紹介してもらうことにした。その方の紹介でとある合唱団を見学し、そこで初めて触れたのがヨハン・セバスチャン・バッハ作曲「マタイ受難曲」なのである。

マタイ受難曲演奏会　リハーサル（2016.3.20　写真：三浦興一）

当時の私が知っていた大バッハの曲は、オルガン曲のトッカータとフーガニ短調や無伴奏チェロ組曲くらいで、カンタータなどの声楽曲が多数存在することすら知らなかった。ただ何も知らなかった事が幸いしたのか、この大曲に挑むことに何ら恐れを感じること無く、いきなり練習に参加して歌ってみるという“暴挙”に出ることができた。ドイツ語については大学時代の第二外国語以来で、発音もほぼ忘れている状態のため周りの人の声を聴きながらカタカナ読みをしていた。音程感については小学生時代のピアノ経験が役に立ち、隣で歌っていた人達の温かい支援のおかげで、落ちこぼれる事無く付いて行けそうな気がした。曲の第一印象も「難しい」というよりはむしろ「面白い」という感覚で

あった。今思えば最初に出会った曲が「バッハのマタイ受難曲」でなく他の作曲家の曲であったなら、これほど合唱やバッハの声楽曲にハマるという事は無かったのかもしれない。

マタイ受難曲　第一コーラス（2016.3.20　写真：三浦興一）

初めてのマタイ受難曲演奏会を無事終え、バッハの小ミサ曲とカンタータに取り組み始めた頃、同じ合唱団に居た方から明治学院バッハ・アカデミーでマタイ受難曲の初期稿版を演奏する予定があるので、参加したらどうかと打診を受けた。その時の私は月曜日の練習に出ることが難しい時期にあったため残念ながら見送る事になったが、次のミサ曲ロ短調演奏会への練習に参加するきっかけになった。それが 2002 年 4 月の事である。まだバッハを歌い始めて一年程の私であったが、快く受け入れて下さった合唱団員の皆様、指導者の方、そして芸術監督の樋口先生には今でも感謝している。バッハの大曲を続けて 2 曲も学べるという幸運にも。その後も継続してバッハの名曲を数々経験することができ、まさしくマタイ受難曲が私を本格的にバッハの世界へ連れて行ってくれたのだった。

2008 年 3 月のチャペルでの演奏会に参加した後しばらくバッハ・アカデミーを離れる事になり、バッハの合唱曲からも少し遠ざかってしまったが、今回のサントリーホールでの演奏会に参加できるという幸運に再び恵まれた。私にとっても 3 度目のマタイ受難曲であり、今までのバッハ経験の集大成にしようと意気込んで参加した。意気込んだあまり練習時につい大声で歌ってしまう悪い癖が出てしまうのだが。

マタイ受難曲演奏会　祭司長のデュエット（2016.3.20　写真：三浦興一）

そんな時は樋口先生の指導内容を思い出すのだ。「受難曲の合唱は怒れる群衆の場面と、コラールで人々の心の内面を歌う場面があるが、その違いが分かるように歌うこと。」「他のパートを消してしまうような歌い方は慎むこと。」マタイ受難曲は音楽そのものが物語を形成しているので、たとえ福音書の文言を知らなくても、歌詞と旋律を追っていけばイエス・キリストがどのように人々から罪を着せられ、死に追いやられていくかが手に取るように分かる。そういった曲の内容や背景に随時触れながら練習ができるのは、バッハ・アカデミーならではである。

演奏会は予想以上の成功を収めたと思う。私の知人からも福音史家、イエスが秀逸だった、合唱のレベルが高かったとお褒めの言葉をいただいた。ところで演奏の中で私が気に入っている部分を述べてみたい。38 曲から 39 曲までの、弟子のペテロがイエスのことを知らないと 3 度偽る場面である。

「鶏が鳴く前にあなたは 3 度私を知らないと言うだろう」というイエスの言葉を思い出したペテロは号泣し、続くアリアのヴァイオリン旋律がペテロの頬から流れ落ちる涙を想起させるシーンも含めて。36 曲 b、d と怒れる群衆を演じその後 39 曲を聞くと、たとえ舞台に出ている間でも涙せずには居られない。本当に落涙するわけにはいかないので心の中で泣くのである。
そのあとの 41 曲 c において普段の私の姿からは似ても似つかない、祭司長 I の役を拝命し無事に努めることが出来た。練習後居残りで指導してくださった樋口先生、伴奏の栗島先生、祭司長の相方高槻さんに感謝である。そしてこの演奏会が終わった一週間後、バッハのもう一つの大曲を歌うべく東北の地へ向かう私であった。
マタイ受難曲よ、私をバッハの世界に導いてくれてありがとう。

フォトギャラリー 「マタイ受難曲演奏会」

前日のオケ合わせの様子。直前まで真剣な議論が続きます。

リハーサル時の明治学院高校ハイグリー部。実際に聞いてみた結果、もっと天から降ってくるようなイメージにするためにP 席の最上部に移動しました。（写真：三浦興一）

ステージの両脇に、字幕用のスクリーンを立てました。

全曲終了後のカーテンコール。ほっとすると同時に充実感に満たされる一瞬です。（写真：三浦興一）

（事務局だより）

バッハアカデミー維持会　第三期募集中！

明治学院バッハ・アカデミー（2000 年創立）は、2010 年 3 月、第 1 期の活動を終えました。しかしその後もサントリーホール「ウィーン音楽散歩 I・II」出演をはじめ活動の場を広げ、2013 年 11 月にはベルリン・コンツェルトハウス、ブリュッセル王室礼拝堂への海外公演を行うなど、さらなる発展を遂げております。そこで「明治学院バッハ・アカデミー維持会」を設立しました。お陰様で、2014 年 10 月のサントリーホールにおけるバッハの《ミサ曲ロ短調》演奏会に続き、今年 3 月の《マタイ受難曲》公演も成功裏に終わりましたが、これもひとえに皆様のご支援の賜物でした。本年度も、サントリーホールにおける《フォーレ「レクイエム」》公演の支援を行います。
今年度の維持会員としてご参加いただき、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

2016 年度維持会員の方には、6 月のフォーレ「レクイエム」演奏会の特別指定席(S 席 1 枚)をご招待いたします。また、同公演のチケットを維持会員特別価格にてご購入いただけます。

これからの演奏会のお知らせ

＜フォーレ「レクイエム」演奏会＞
日時・会場：　2016 年 6 月 21 日（火）19 時開演　サントリーホール　大ホール
曲目：　F. プーランク：　オルガン、弦楽とティンパニのための協奏曲　ト短調
　　W.A. モーツァルト：　交響曲　第 35 番ニ長調　「ハフナー」K.385
　　ミサ曲　変ロ長調 K.275(272b)
　　C. フランク：　コラール第 3 番　イ短調
　　G. フォーレ：　レクイエム　ニ短調 op.48

指揮：　樋口隆一
合奏：　N 響団友オーケストラ

※維持会員の方には、本公演の招待券を 1 枚お送りいたします。また、本公演のチケットを維持会員特別価格にてご購入いただけます。

＜白石キューブ合唱団とのジョイントコンサート＞
日時・会場：　2016 年 11 月 19 日（土）　16:00 開演（予定）　白石ホワイトキューブ（宮城県白石市）にて
曲目：　J.S. バッハ：　ミサ曲イ長調 BWV234
　　佐藤眞：　混声合唱のための組曲「蔵王」　他
指揮：　佐々木隆行、樋口隆一

バッハ・アカデミー　ホームページ：http://www1.m.jcnnet.jp/bachakademie/

明治学院バッハ・アカデミー維持会報　第4号　2016 年 4 月 30 日発行